

2010 年度 4 カ国(タイ・ラオス・ベトナム・日本)合同セミナー

報 告 書

第 4 回保健・医療と福祉の合同セミナーが、神戸学院大学と香川県三豊市詫間町の旧民家にて開催されました。20 歳から 39 歳までの日本の若者たちが、海外から招待された若者たちと詫間町の農家の高齢者たちと、異文化・異年齢の交流を行いました。それぞれの立場から現状を報告し、また、意見交換を重ねて、相互理解を深め、視野を広げたセミナーになりました。

- ◆期 間 : 2010 年 10 月 21 日(木)～25 日(月)
- ◆場 所 : 神戸市ならびに三豊市詫間町、泉南郡熊取町(本会事務所)、奈良市(東大寺)
- ◆参 加 国 : タイ・ベトナム・日本(オブザーバーとしてオランダ)
内訳(タイ人 1 名・ベトナム人 3 名・オランダ人 1 名・日本約 190 名)
- ◆助成団体 : (財)三菱 UFJ 国際財団(助成金 50 万円)
- ◆主 催 : アイユーゴー ～途上国の人と共に～
- ◆協 賛 : 神戸大学大学院保健学研究科
ダラット大学社会福祉学部
- ◆協 力 : 神戸学院大学社会リハビリテーション学科
近畿大学総合社会学部
- ◆目 的 : 神戸学院大学、三豊市詫間町、泉南郡熊取町(本会事務所)、奈良市(東大寺)にて、5 日間、20 歳から 39 歳までの保健・医療、福祉に関する若者たちが、神戸学院大学においてはそれぞれの立場から学術的交流を、詫間町の旧家においては近所の高齢者たちを交え日本の地方に見られる社会問題をテーマに討論会を行い、さらに食文化交流を行うことを目的とする。
- ◆活 動 :
 - 1)セミナー
 - (1) 保健・医療、福祉に関する 4 カ国の若者による報告・意見交換の場を提供する。
テーマは福祉行政、および母子保健、栄養、感染症、検査技師、リハビリテーションなどの分野から報告を受け、社会的弱者の救済に関してどこに問題があるかに焦点を絞り、議論を行う。
 - (2) その議論に基づいて、行動プランを検討する。
 - 2)文化交流
 - (1) 食文化交流
 - (2) 異文化・異年齢交流
テーマ:「日本の地方半農地区に見る様々な社会問題」
 - (3) ホームステイ



目次

1. アイユーゴ主催 第4回 医療・保健, 福祉に関する4ヶ国合同セミナー・・・	3
<以下省略>	
2. 参加者・・・	8
3. 活動内容・・・	10
4. 討論会	
「日本の地方半農地域に見る様々な社会問題 地元住民を交えて」・・・	13
5. 参加者による感想文・・・	15
6. 活動地 図・・・	22
あとがき・・・	24
資料・・・	25
Invitation letter、Letter of Gurantee、招へい理由書 (sample)	
保険加入依頼のためのFAX通信	
(別紙資料)	
パワーポイントによる報告者の発表内容	

第4回 医療・保健，福祉に関する4ヶ国合同セミナー

神戸大学大学院保健学研究科教授 三木明德

2010年10月22～24日の3日間，神戸学院大学と香川県三豊市詫間町の旧民家を会場にして，第4回保健・医療，福祉に関する合同セミナーが開催された。このセミナーには今回も（財）三菱UFJ国際財団から助成を頂き，ダラット大学社会福祉学部（ベトナム）と神戸大学大学院保健学研究科が協賛大学，神戸学院大学と近畿大学が協力大学として，また京都大学や大阪府立大学からも学生が参加した。今回のセミナーでは医療・福祉や環境問題などをテーマに，40歳以下の若手教員や学生が中心となって企画・運営に当たった。

10月22日（金）午前10時に神戸学院大学に集合し，溝口史郎理事長（学校法人神戸学院大学）を表敬訪問した（図1）。10時40分から始まった第一部：公衆衛生学セミナーでは，ワチラ氏（タイ・メーホンソン県副知事，難民キャンプ司令官）が医療リハビリテーション学科の学生約百名を前にして，「タイにおけるミャンマー難民の保護活動」と題して基調報告を行った（図2）。その後学生は3グループに分かれ，他の参加者も加わってグループ討論が行われた。日本人にとって難民という言葉は遠い世界のものであるが，その現実を多数の写真で見せられ，学生たちは大きな衝撃を受けたようである。また，難民の受け入れに日本が消極的であることに歯がゆさを感じたようである。

学生食堂で昼食をとり，午後1時20分からの第二部：社会福祉学セミナーでは社会リハビリテーション学科（社会福祉学）の学生約20名を対象に，ヒエン氏（ベトナム・ダラット大学社会福祉学部）が「ベトナムとフィリピンにおける社会福祉制度」と題して基調報告を行い，質問も含めて合同討議を行った。ここでは貧困問題が学生にとって一大関心事であった。第一部，第二部ともに神戸学院大学社会リハビリテーション学科，西垣千春教授のご協力を頂いた。

コーヒーブレイクをはさんで，午後3時半からの第三部：海外交流セミナーでは40名ほどの学生有志が集まり，3名がこれまでにやってきた海外活動，2名の神戸学院大学学生が日本の現状について報告した。発表者および演題は以下のとおりである。

- 1) 古賀順子（神戸大学大学院保健学研究科大学院生，管理栄養士）：
「ボツワナのHIV/エイズ事情」
- 2) 小池美帆（神戸大学大学院保健学研究科大学院生，作業療法士）：
「海外青年協力隊としてのベトナムでの活動より」
- 3) 中原成美（京都大学法学部学生）：
「海外を実体験する。～「聞いたこと」から「体験したこと」へ～」
- 4) 辻元 悠，小林尚太，真下尚樹，菅沼 諒（神戸学院大学学生）：
“Educational system of Japan.”
- 5) 上田悠司，永田 智，原山永世，藤川ひろみ，山石朋枝（神戸学院大学学生）：
“Changes of death cause and the health insurance system in Japan.”

海外に関心を持っている学生は多く、医療専門職者としての海外活動には「きっといつか自分も・・・」という思いが喚起されたようである。また、神戸学院大学の学生は英語で発表した（図 3）。海外からの参加者は日本の教育や保健・医療、福祉制度に関する発表に熱心に耳を傾け、発表後は多くの質問が寄せられた（図 4）。質問攻めに遭った学生は、「やっぱり、もっと英語を勉強しないとだめですね。いい経験になりました。」と反省の弁を洩らしつつも、自分の英語発表が通じたことに、少し自信を持ったようである。

熱心な質疑応答のために少し時間がオーバーしたが、午後 6 時半から 40 名ほどが参加して懇親会が開かれた。冒頭、挨拶に立った溝口理事長は、このセミナーが神戸学院大学で開かれたことに謝意を表し、「アイユーゴーのこのような国際交流活動に大変期待している。」と述べられた。また、若い学生に対して「国際交流は異文化を体験して、互いに尊重し合うことから始まりますが、そのためにはまず君達が日本のことをよく知らなければなりません。」と語りかけた（図 5）。そして溝口理事長の乾杯の音頭で懇親会が始まった。神戸学院大学でのセミナーには神戸学院大学だけでなく、神戸大学、近畿大学、京都大学、大阪府立大学の学生も多数参加し、大学や国を越えて交流の輪が広がった。

10 月 23 日（土）午前 9 時、四国ツアー隊は 7 台の車に分乗して神戸を出発した。このツアーにも 4 名の海外組、神戸大学、近畿大学、京都大学の学生や教職員、三菱 UFJ 国際財団の福田 一氏ら、合わせて 27 名が参加した。山陽自動車道と瀬戸大橋（瀬戸中央道）を經由して、予定より少し遅れて午後 1 時過ぎに会場に到着した。会場は明治 20 年頃に建てられた木造家屋である（図 6）。まずは「腹ごしらえ」とばかりに近くのうどん屋に向かい、讃岐名物の手打ちうどんに舌鼓を打った。

午後 2 時過ぎ、「日本の地方半農地区に見る様々な社会問題」というテーマで討論会が始まった。これには会場近くに住む住民も数人集まって下さった（図 7）。急速に発展しつつある東南アジア諸国は、同じアジアの国である日本を手本にしているといわれている。戦後、日本は経済的に奇跡的な発展を遂げたが、その結果、少子高齢化、地方の過疎化、医療、介護、福祉、年金制度の破綻、環境破壊や若者の就職難など、様々な社会問題が生じている。東南アジアの若い人たちに、戦後の発展を担い、その後の変遷を見つめてきた先輩達から、生の声を直接聞いてもらうのが討論会の目的である。またここで、ミン氏（ベトナム・ホーチミン大学教員）がベトナムの現状を紹介した。

この間、一部の学生は芋掘りや（図 8）交流会の準備をした。バーベキューで焼く野菜は安政時代の「もろぶた」に盛られた。午後 4 時を過ぎても熱心な討論は終わりそうになかったが、美味そうなおいが立ち始めると、「じゃあ、この続きは明日」ということになり、参加者全員が前庭に集まって交流会が始まった。ビールを片手にバーベキューをつつきながら、あちこちで笑い声や歓声が上がった（図 9）。地元の人達も学生を交えて海外組と歓談したり、若い人達が始めたゲームの輪に加わって、交流会は最高潮に達した。「わしら今まで、外人と喋ったり呑んだり、そなんこと思うてもみなだけど、今日はよかった、ほんまに楽しかったわ。わしらも今日からはちょっとした国際人やで・・・」と満面笑みをたたえて話してくれたのが嬉しかった。二次会は家の中で始まったが、いつ終わるとも知れず、眠くなった者から順に奥の部屋で雑魚寝した。私は明日のために零時頃蒲団に入ったが、聞くところによると午前 3 時頃まで続いていたようである。一部の学生は近所の民家にも泊めてもらったが、こちらでも結構遅くまで盛り上がっていたらしい。

24 日（日）は午前 7 時頃から落ち葉を集めて焚き火を始め、十分に燃やした後、上に籾殻をかぶせて

火床を作り、前日に収穫した芋を焼いた（図 10）。別の人達は出汁を作ったりネギを刻んだりして朝食の準備をし、9時過ぎに近くの道久製麺所に向かった。どんぶりや箸など一式を携え、二十数人がぞろぞろと行進する光景は傍目にはちょっと異様に映ったかもしれない（図 11）。できたての、腰の強いうどんをたらふく食べたあと（図 12）、家に戻って昨日の続きが始まった。ここではクワン氏（ベトナム・ホーチミン大学教授）が「私が見た日本」というテーマでミニ講演を行い、これまた活発な討論が行われた。

昼食は近くの小料理屋で食べた。値段のわりには刺身あり、天ぷらあり、茶碗蒸ありの立派な和風弁当で、海外組も料理の美しさに、カメラのシャッターを何度も押していた。昼食後、荘内半島のドライブに出かけたが、どんよりした空から雨がポツポツ、そして次第に雨足が強くなってきた。紫雲出山の展望台からは、モヤに包まれてぼんやりとかすむ瀬戸の島々しか見えなかった。「お天気ならきれいでしょうにね。でも今回はいっぱい楽しんだから、ここは次回のお楽しみ・・・。」また来るつもりのである。午後3時過ぎ、一行は高松自動車道と明石海峡大橋を經由して大阪や神戸に向かった。私は後の点検や戸締まりのために一人家に残った。再び雨音が聞こえてきた。

過去3回の合同セミナーはタイ、ベトナム、ラオスで開催され、毎回数人ずつの若い日本人がこれらの国に行って様々なことに直接触れるとともに、多くの現地の人たちと交流することができた。今回このセミナーを日本で開いたのは、これからのインドシナ諸国を背負って立つ若い人たちに、先進国と呼ばれる日本の本当の姿、陽だけでなく陰の部分も直に見てもらうためであった。今回来日したのはタイとベトナムからの4名であったが、このセミナーを通して、のべ百数十名の若い日本人が外国との接点を持つことができたし、参加してくれた詫間町の人達も、タイやベトナムがグッと近くに感じられるようになったに違いない。このセミナーでは、ミーティングを通してそれぞれの国の現状や文化、歴史を互いに知り、協力して取り組むべき課題を共通認識することが目的の1つである。しかし、本当の交流を深めるために「一緒に食べて、飲んで、遊ぶ」時間も十分に確保した。この四国ツアーを通して、海外組だけでなく日本の若い人たちも、讃岐うどんや日本の地方文化を味わい、多くの人とじっくり語り合っただけでなく仲間になれたことに大変満足したようである。「次はいつですか？」何人もが私の携帯電話に連絡先を登録していた。

今後もアイユーゴーは色々と工夫を凝らしながら、様々な国の人々と交流の輪を広げていきたいと思っている。最後に、今回のセミナーでお世話になった三菱UFJ国際財団や協力して下さった神戸学院大学、一行を温かく迎えて下さった詫間町の皆様、本セミナーに寄附をお寄せ頂いた方々に心より御礼を述べたいと思う。

（アイユーゴー 副代表理事）

<図と説明 (その1)>



図1 溝口史郎神戸学院大学理事長を表敬訪問した一行。



図2 神戸学院大学の第一部：公衆衛生学セミナーで基調報告を行うワチラ氏。



図3 神戸学院大学の第三部：海外交流セミナーで発表する神戸学院大学の学生。



図4 神戸学院大学の第三部：海外交流セミナーにおける討論風景。



図5 神戸学院大学の懇親会で冒頭の挨拶をする溝口史郎理事長。



図6 四国会場になった香川県三豊市詫間町の旧民家。

<図と説明 (その2)>



図7 地元住民を交えて行われた四国セミナーの討論会。



図8 近所の人に教わりながらバーベキューで食べる芋を掘る学生たち。



図9 前庭ではバーベキューを囲んで海外組、学生、地域住民が交流した。



図10 落ち葉を十分に燃やした後、籾殻かぶせて火床を作り、芋を焼いた。



図11 どんぶりや箸など、一式を携えて製麺所に出発するところ。



図12 出来たての、腰の強いうどんをたらふく食べた道久製麺所。